

# 各委員ヒアリング等における 「市総合計画に必要な視点」等について

平成31年 2月 1日

# ヒアリング概要

## 目的

新たな市総合計画の策定に向けて、市総合計画審議会委員の皆さまの「計画策定に必要な視点」、「将来への思い」、「課題認識」などについて把握・共有することで、審議の活性化や一体感につなげるもの。

## 期間

平成30年12月18日 ~ 平成31年1月18日

## 内容

すべての委員へ個別に訪問し、聞き取り・意見交換を行い、委員の皆さまからの主なご提案・ご意見を「総合計画策定に必要な視点」、「これからのまちづくりに向けたキーワード」としてとりまとめたもの。

# ヒアリングのキーワード整理

## I 総合計画策定に必要な視点

- ①総合計画の方向性・目標の明確化、施策の重点化
- ②わかりやすい総合計画・伝わる総合計画

## II これからのまちづくりに向けたキーワード

### 1 目指すべきいわきの未来 (将来像・中長期目標)

- ①持続可能
- ②郷土愛

### 2 まちづくりのしくみ (共創、行政サービス)

- ①自分ごと化
- ②地域力
- ③つながり
- ④若者
- ⑤行政区の捉え方
- ⑥コンパ°外+ネットワーク
- ⑦今ある資源の有効活用
- ⑧公共施設

### 3 まちづくりの方向性 (施策、重要テーマ)

- ①震災・復興の先
- ②自然を活かす・環境を守る
- ③子育て環境
- ④医療・健康
- ⑤教育
- ⑥人財育成
- ⑦水産業
- ⑧交流・連携
- ⑨交通
- ⑩外国人の受入・インバウンド

# I 総合計画策定に必要な視点

# I 総合計画策定に必要な視点

## 視点① 「総合計画の方向性・目標の明確化、施策の重点化」

- まちづくりで大切にすべきことなど、**明確な方向性**を打ち出す
- 優先的な分野・施策、重点テーマ**を絞るなど**持続可能**なものに（**横断的に**）
- 共創の取組など、具体的に**何をするのか・何をすべきか市民目線**でもわかるように
- 目標を数値化**しそれを**評価する基準**などの設定

### 主なご提案・ご意見

- ・共創を具体化も大切だが、これからのまちづくりにおいて最も大切にしたいことは何かを明確にすべき。
- ・いわきにとっての優先的な施策・分野を整理していくのはどうか（交通、医療、産業など）
- ・総合計画で目指す目標の数値化（見える化）が必要
- ・20～30年先に活躍する「次世代の子どもたちが住みやすい・働きやすいまち」をつくること
- ・今後、総合計画で重要テーマを決めていく(選ぶ)ことが必要
- ・明確な方向性と評価基準（指標など）の設定が必要
- ・インパクトがあるテーマに絞って計画策定したほうが、市民の共感、理解が得られやすい
- ・人口減少に伴い税収減になるなかで、どこに重点を置いて、具体的にどうしていくのかを決める必要
- ・総合計画の位置付けとして、すべてに共通するベースとなるものとしてコンパクトに策定
- ・総合計画には、市民目線でできるレベルのものを位置付ける。
- ・分野・団体を超えた協力・連携により、それぞれの分野だけに固執せず、大きなテーマを各分野・団体が協力し目指す必要

# I 総合計画策定に必要な視点

## 視点② 「わかりやすい総合計画・伝わる総合計画」

- **誰にでもわかりやすく**・シンプルな総合計画に
- 総合計画を策定して終わりではなく、その後の**伝え方**の工夫
- 基本的には、昨年度のまちづくり市民会議におけるとりまとめた内容と同様のご意見
  - ・計画期間については、20～30年先を見据えつつも、長くても**「10年」**
  - ・計画構成については、わかりやすさの観点から**「2層構造」**

### 主なご提案・ご意見

- ・総合計画は市民目線でわかりやすく、シンプルにメッセージを伝えること。
- ・市民に伝えるにはA3用紙 1枚でダイジェスト版にするくらいのつもりで。
- ・総合計画と創生総合戦略は一体的にわかりやすく策定すべき
- ・策定後の発信の仕方を工夫する必要
- ・1人でも多くの市民に伝え・共有できるかが大事。
- ・計画期間は10年で、内容もコンパクトにまとめたものの方がよいと考える。
- ・総合計画の構成は2層でいいのでは（よりわかりやすく）
- ・次期総合計画は、短すぎず長すぎない10年が適当
- ・総合計画は、2層構造などわかりやすく、見通しても10年程度のスパンで。
- ・昨年からの検討を踏まえて、次期総合計画は2層構造で、期間は10年。
- ・まちづくりの方向性は長い目でみつつ、手段は個別計画に委ねるべき。
- ・基本構想と計画を一つにし、期間を10年にすることでよい。

## Ⅱ これからのまちづくりに向けた キーワード

# 1 目指すべきいわきの未来(将来像・中長期目標)

## 視点① 「持続可能」

- まちづくりの根幹となる「**持続可能な地域づくり**」の必要
- 人口減少・少子高齢化の中、**できること・できないことのバランス**が必要
- すべての世代、**誰もが安心して暮らせることがベース**には必要
- これまでと同様の行政サービスを続けていくことは困難

### 主なご提案・ご意見

- ・これからのまちづくりに対し、それには課題や制約（人口、財政、公共施設等）がある
- ・人口減少・税収減で新しくつくるモノ、コトは限られる
- ・人口減少の中、チャンスを見て攻めつつも、バランスをとりながら引いていく必要
- ・今後は、「持続できる地域づくり」が必要。
- ・少子高齢化、子ども～高齢者まですべての世代がこれまでの以上につながる必要
- ・性別・障がい等によらず、「誰もが」住み慣れた場所で安心して暮らせることがベースにある必要
- ・まちづくりは「すべてが」ではなく「ここだけは」という強み・想いが必要
- ・「持続可能なまち」にするために本格的に考えていかなければならない。
- ・具体的な行政の黒字化を目指すべき(民間への減免廃止、補助金の見直し)
- ・今までと同じ行政サービスを持続することは不可能（民間に委ねるところは委ねる）
- ・どこにお金を使うか、また使わないか、その選択をする事も必要

# 1 目指すべきいわきの未来(将来像・中長期目標)

## 視点② 「郷土愛」

- いわきの良さを**大人が再認識**し、子どもたちに伝えていく必要
- いわきらしさ・強み**を活かす必要

### 主なご提案・ご意見

- ・いわきには「働き先がない」、「魅力がない」、「交通が不便」などを子どもの時からすりこむのはよくない（郷土愛が大事）。
- ・地域の大人が地元を大切にする意識を持ち、いわきの良さを子どもに伝えていくこと。
- ・親世代がいわきのよさを再認識し、子どもたちに伝えていくことが大事。
- ・田舎は田舎らしさ・強みを活かしたまちづくりを。

## 2 まちづくりのしくみ(共創、行政サービス)

### 視点① 「自分ごと化」

- まちづくりは、まずは「**身近なところから**」・「**自ら**」動いていくという姿勢が必要
- 行政ばかりに頼らない

### 主なご提案・ご意見

- ・まちづくりは何事も自分ごと化（私の地域の公民館という気持ち など）
- ・まずは身近な小さなことから、行政のこと、まちのことを考える
- ・まちづくりは、行政に任せきりではなく、自分ごと化し、自ら動いていく必要。
- ・地域の学校も自分たちが運営していくんだという気持ちが大事。
- ・いわき全体のために、まずは地区ごとに頑張ってみる
- ・「いるひと、あるもの、できること」から始めよう。

## 2 まちづくりのしくみ(共創、行政サービス)

### 視点② 「地域力」

○地域住民が主役であり、**地域力がベース**に必要

#### 主なご提案・ご意見

- ・地域包括ケアは、医療・介護の問題ではなく「まちづくり」で、人のつながりをいかにつくっていくか。地域住民が主役。地域に力がベースにあるから様々なことができる。
- ・地域に力がないとまちが衰退していくので、地域に入り、草の根的な取組を各分野で進めていき、地域力を高め、まちづくりの資源にする必要。

## 2 まちづくりのしくみ(共創、行政サービス)

### 視点③ 「つながり」

- 子ども～高齢者まで**すべての世代誰もが**1人でも多く**つながる**必要
- 単独分野だけの考えだけでなく、これからは**他分野とのつながり・一体感**が必要

#### 主なご提案・ご意見

- ・この地域で誰もが幸せに生きていくために、全世代がつながり、一体感が持てるような地域づくりが必要。
- ・1人ひとりの意識が必要で、1人でも多くつながりを持ち・巻き込んでいく。
- ・住まい方（住み替えなど）で子どもも高齢者も障がい者も一緒に住める（看れる）ような取組が必要
- ・医療や介護だけでは成り立たない。教育や他の分野とのつながり・一体感。

## 2 まちづくりのしくみ(共創、行政サービス)

### 視点④ 「若者」

- これからのまちづくりには、**若者の意見**が重要であり、それを**聴く仕掛け**が必要
- 若者が**いわきに来たくなる・出たとしても戻ってきたくなる取組**が必要

#### 主なご提案・ご意見

- ・これからの世代（若手）との意見を交わす機会をつくる必要がある
- ・これからのまちづくりは、これからの世代、特に若手の意見が重要
- ・いわきの若者が実際に「何を想って、何を必要としているのか」ディスカッションできる仕掛けが必要。
- ・若者の参画には、民間の取組・体制（例えば、未来会議など）を活用
- ・これからのまちづくりは若手中心なので、若手同士のつながりが大切。
- ・若者の流失について、親への啓蒙活動は大事（日頃からいわきに帰ってくるよう伝える）
- ・子どもたちには、仮に市外に出たとしても、いわきに戻りたいと思ってもらえるようなまちにしていきたい。
- ・首都圏等でスキルを身に着けた若者が戻ってこれるような、流れがあるとよい。
- ・これからのまちづくりは若者を大事に（学生を巻き込むべき）。
- ・第一次産業は高齢化による人手不足が顕著であり、若者が入ってきやすい環境づくりが大切である。
- ・今後のまちづくりは、若手、特に女性の起業支援が必要

## 2 まちづくりのしくみ(共創、行政サービス)

### 視点⑤ 「行政区の捉え方」

- **中心**となる地区や、地区ごとの**特色**を生かしたまちづくりが必要
- 将来を見据えて、13行政区という考え方の**再考**が必要

#### 主なご提案・ご意見

- ・平中心のまちづくりには賛成。それぞれの地域の特性を生かしつつ、中心は平でよい。
- ・いわきの中心は平。これまでのまちづくりは失敗。
- ・合併は13地区が対等、故に中心となる地区がない。
- ・小名浜は観光、平は行政・文化など、地区にメリハリを。
- ・地区ごとの派閥がある。
- ・13行政区の解消（例えば7地区に。長い時間を要するので、早めに着手）

## 2 まちづくりのしくみ(共創、行政サービス)

### 視点⑥ 「コンパクト+ネットワーク」

- **まちの核**をつくり、そこを**あらゆるネットワーク**で結ぶ必要（特に中山間地域）
- 地域の個性・特性を活かしつつも、**コンパクト化**が必要

#### 主なご提案・ご意見

- ・イオンモールは1つのコンパクトシティ。新たなコミュニティ構築の場に活用。
- ・中山間地域ならではのネットワークを活かせるまちづくり（人と人とのつながり）
- ・将来的に、中山間含めまちの核ができる。そこをあらゆるネットワークで結ぶ
- ・地域の個性や特性を生かしつつ、コンパクトにする所はする、というのは今後必要な考え方である。

## 2 まちづくりのしくみ(共創、行政サービス)

### 視点⑦ 「今ある資源の有効活用（廃校・空き家含む）」

- 新しくつくるのではなく、**今ある資源を活用**する視点が今後のまちづくりに必要
- 地域の活性化のために廃校や空き家の利活用は、その**機能の組み合わせ**が大事

#### 主なご提案・ご意見

- ・地域の雇用につながるような、廃校利活用ができればよい。
- ・資源を活用したまちづくりが必要（小名浜臨海鉄道、小名浜港、イオンモール、温泉、インフラ等）
- ・公共施設、特に廃校の利活用は必要（宿泊施設、合宿施設など）
- ・岬公園の音楽堂の利活用が低調。もったいない。（地域、若者に積極的に提供すべき）
- ・すでにある資源で使えるものは使っていく（自然、公共・商業施設 など）
- ・廃校利活用は組み合わせ方（例：つどいの場+子育てサロン+子ども食堂）
- ・好間三小の廃校利活用については地域でも様々な考えはある。
- ・廃校等の利活用は積極的に促進していくべき。
- ・今ある資源を有効活用するため、具体的な動きを見せていく必要。
- ・古民家カフェを運営する等の取組もあるが、維持する工夫が必要。

## 2 まちづくりのしくみ(共創、行政サービス)

### 視点⑧ 「公共施設」

- これまで整備してきた**公共施設をどうすべきか**の意識が必要
- 公共施設の**役割・目的などの再整理**の必要

#### 主なご提案・ご意見

- ・これまで建てた公共施設の更新時期がまとまって到来するが、人口減少の中どうしていくのか。こういうものを将来世代に残してはいけない。
- ・公共・民間施設は、施設本来の役割・目的を見直すべきではないか
- ・役所にワンストップ窓口があったとしても、人事異動があり、専門性がないことが多い。仕方のないことかもしれないが、住みよいまちづくりという観点から、市民の抱えている問題を素早く解決できるような体制づくりも重要である。

# 3 まちづくりの方向性(施策、重要テーマ)

## 視点① 「震災・復興の先」

○震災・原発事故等への対応については**復興・創生期間以降も**しっかりと取り組む必要

### 主なご提案・ご意見

- ・チェルノブイリ事故等を踏まえると、本市の原発事故に対するフォローは、長期的に考えなければならないと思う（特に健康面）
- ・未だに世界には「フクシマ」のイメージが残っているので、払拭に取り組む。
- ・国では復興・創生期間を2020年度までとしているが、その後もしっかりと対応して欲しい。

# 3 まちづくりの方向性(施策、重要テーマ)

## 視点② 「自然を活かす・環境を守る」

- いわきの安定した**気候**や多くの**自然**（海・山・川など）を活かしたまちづくり
- 誰にでもできること・現状などから、**環境を守る**必要

### 主なご提案・ご意見

- ・いわきは自然資源が豊富。活用しない手はない。
- ・きれいな水には山が必須。日常生活と山の関わりをもっと認識してほしい。
- ・エコは大切だが、我慢をする必要はない。エコにこだわりすぎると住みよいまちづくりから遠のくこともある。
- ・環境の中でも、「水」は特に大切な資源。いわきの財産として、次期計画に反映させるべき。
- ・「守るもの」（水など）と「利用するもの」（山林など）を分けて考える
- ・日照時間が長いことや、気候が温暖、台風被害が少ないなどの強みを活かしたまちづくりも必要である。
- ・誰でもできる環境保全是、みんなでやるべき（ゴミ拾い等）
- ・林業は量から質になっている。
- ・山が荒れている現状を知って欲しい。災害が起こる前に地滑り対策を。

# 3 まちづくりの方向性(施策、重要テーマ)

## 視点③ 「子育て環境」

○ **女性活躍の視点**などからも、子育て環境の整備は必要

### 主なご提案・ご意見

- ・若者にとって子育てできる環境が整っているまちは魅力的である。
- ・女性の活躍促進の観点から、子育て環境の整備は必須

# 3 まちづくりの方向性(施策、重要テーマ)

## 視点④ 「医療・健康」

- 引き続き、**医師不足**への積極的な対応
- 検診などを通じた**健康への意識**が必要

### 主なご提案・ご意見

- ・医療センターには医師不足の観点からも良い医者が必要。
- ・その点でも各人が自分の一生を見据えた検診を行える環境及び自立した人生プランが必要。  
(かかりつけ医を持つ等)

# 3 まちづくりの方向性(施策、重要テーマ)

## 視点⑤ 「教育」

- 教育環境のさらなる充実
- 地域における教育**から様々な経験を得ていく必要

### 主なご提案・ご意見

- ・若者にとっての魅力、それはやはり教育である。
- ・教育が弱い。東大合格者が少ない。
- ・小中学校の環境が良くない。成績主義も大事。
- ・教育はまちづくりのキーポイントになる。様々な分野の方が関わる「地域における教育」へシフトしていく必要。  
小・中・高までに様々な経験を教育から。
- ・市の教育への取組みには好印象。しかし、市の教育事業を保護者が知らないのは、もったいない。

# 3 まちづくりの方向性(施策、重要テーマ)

## 視点⑥ 「人財育成」

○各分野の人財不足に対応するため、あらゆる**人財の確保・育成**が必要

### 主なご提案・ご意見

- ・今後のまちづくりには、外からのお金の流れに加え、人財、ノウハウが必要
- ・後継も含め、人財育成が必要（行政嘱託員、民生委員、NPO など）
- ・商工会でも後継者不足の問題がある。
- ・人材不足。解決策を行政と一緒に考えていきたい。
- ・高齢者のパワーを活用（家から出て活動することで介護予防にも）
- ・NPOは人材と資金不足。自主事業を行って収入を得るのが理想ではあるが疲弊している。
- ・解散するNPOが増加傾向。
- ・まちづくりにはNPOの存在は必須である。運営が上手くいっているNPOはわずか。
- ・NPOにとっても代表者の高齢化は課題の一つである。

# 3 まちづくりの方向性(施策、重要テーマ)

## 視点⑦ 「水産業」

○常磐ものをはじめとした**プロモーション**を通じた水産業の活性化

### 主なご提案・ご意見

- ・漁港の活気がない。水揚げが少なく赤字。
- ・市としても、常磐ものPR等、今後も継続して取組んで欲しい。
- ・魚食普及条例が制定予定であることも喜ばしい。

# 3 まちづくりの方向性(施策、重要テーマ)

## 視点⑧ 「交流・連携」

○広域連携という視点から、**近隣自治体との連携・交流や取組**の必要性・本格化

### 主なご提案・ご意見

- ・茨城県（特に北茨城市～高萩市くらいまで）との連携・交流が必要（特に勿来地区は）
- ・浜通りはもとより、近隣自治体との連携・交流が必要
- ・双葉郡の方々との「共生」を本格化
- ・震災後、相双地区の様々な方と話をする機会があるが、国は帰還を促しているのに対し、現実には「戻れない」というより、「戻らない」というのが本音。
- ・地区を越えて市全体で連携し、新たな観光ルートを確立することで、観光バスを呼び込むことも重要。（ターゲットを絞った投資）
- ・浜通り自治体との連携中枢都市圏の必要性（広野、楡葉などとの人の交流、職場・学校などの公共施設等）。連携しない理由は全くない。
- ・中だけではなく、広域連携の視点もこれからのまちづくりは必要。
- ・今後は稼ぐ事業がポイントになってくる。由布院温泉のような農業・商業・観光の連携によるまちづくりは良い事例。

# 3 まちづくりの方向性(施策、重要テーマ)

## 視点⑨ 「交通」

- 市民の**日常生活**としての交通
- 市外からのアクセス**向上としての交通

### 主なご提案・ご意見

- ・人口減少をどう止めるか。いわきは外からの流入が少ない。要因のひとつとして、新幹線がないこと。
- ・まちのコンパクト化はよいと思うが、交通手段の確保は必須。
- ・首都圏からのアクセス面を改善による交流人口の促進
- ・中山間を中心にデマンド交通などの新たな交通システムの仕掛けが必要
- ・これからのまちづくりや観光には、2次交通の視点は必須。（現在、2020年度からの5か年計画の観光まちづくりビジョンを策定中）。
- ・いわきの課題としては、交通機関の脆弱性。JRをみても、電車の本数が少なく、終電の時間も早い。

# 3 まちづくりの方向性(施策、重要テーマ)

## 視点⑩ 「外国人の受入・インバウンド」

- 外国人の受入やインバウンドに向けた**サポート体制・意識づくり**が必要
- 労働のみならず、**地域の担い手**、その先の**定住**につなげていく必要

### 主なご提案・ご意見

- ・外国人の受け入れをいち早く進めた自治体が勝つ。ダイバーシティ。
- ・外国人に対する地域住民の価値観の変換が大事。
- ・地域住民との融和。それには産官学の連携と自治体のサポートが不可欠
- ・日本で働きたい外国人が多い。
- ・住民登録してもらえれば、自治体にとってもプラス。人口増につながる。
- ・将来的には市内企業などの海外進出にもつなげられるように。
- ・高度人材(技・知・人文・国際業務)を集め、外国人労働者をサポートできる外国人が大切。
- ・外国人の受入をとりまとめる中間支援組織のようなシステムが必要ではないか。
- ・インバウンドは、その受け入れ体制を充実させていく必要。
- ・外国人留学生の地域の活性化・担い手としての必要性。
- ・今後外国人が増える中、定住を見据えたまちづくりが必要（生活レベルでの多言語化等）。

# その他のご提案・ご意見

## ご提案・ご意見

- ・ウォルトディズニーの言葉で、「ランドを訪れるすべての人が現実を忘れ幸福を感じるためにスタッフはあらゆることを惜しまない」というような言葉がある
- ・大手企業の動向も注視（まちの活性化・地域づくりとして、自ら駅前にビルを建てるなど、一気にまちが変わる可能性）
- ・都心部との賃金格差がなくなっている。
- ・全国自治体のまちづくりの成功事例の研究も大事
- ・キャリアコンサルティングをしていると、女性活躍の場について、その制度に過度に甘えすぎている方が多いと感じる（土日は働きたくない、短時間、給料がいい）。そうになるとなかなか採用に結びつかないという現実もある。
- ・子育てとの両立から、事務職を希望する女性が多いが、現状はサービス業の求人ばかり。ミスマッチを解消するため、事務センター（本社は東京）の誘致に対する支援を試みては。いわき市は安くて、質のいい労働力を提供できるはず。
- ・労働者が労働法に対して学べる機会を作ることも「定着率」のアップにつながる。
- ・女性活躍推進企業認証を受けたが、他の企業にもぜひチャレンジしてほしい。安心して働ける企業が多いことをPRすれば、若者の流失を防ぐことにもつながると思う。ただし、要件の有給取得率をあげるには、やはり余剰人員が必要なので、その支援をすることも大事。

## ご提案・ご意見

- ・何をとっても中途半端。福島、郡山にも負ける。
- ・学歴は大事(目に見えない差がある)。
- ・空気の流れを読むこと。
- ・バイオマス発電やCLT工場(浪江)ができて、いわきの雇用が生まれる。
- ・地方は国に振り回される。
- ・実際にアンケートを取らなくても、既存もの(例：子ども標語コンクールの応募作品等)からどの分野に市民が興味関心を寄せているかが見えてくることもある。
- ・キャッチフレーズ(いっしょに考えよう わかいまちいわきの きらきら輝く未来に向けて)